LEGEND レジェンド

作家 黒井 千次 91

一時代を築いた芸能人や文化人、スポーツ選手らの足跡をたどります。毎月第2、第4月曜日掲載予定。

黒井千次の足跡

1932年	東京の高円寺に生まれる
55年	東京大を卒業。富士重工業(現SUBARU)に入社
70年	「時間」で芸術選奨新人賞①。退職し専業作家に
71年	「内向の世代」と呼ばれ始める
84年	「群棲」で谷崎潤一郎賞②
87年	芥川賞選考委員に(～2012年)
95年	「カーテンコール」で読売文学賞
2001年	「羽根と翼」で毎日芸術賞
06年	「一日 夢の柵」で野間文芸賞
14年	文化功労者

①

②

労働・家族・老い 斬新に

「戦争、敗戦、復興を経て、会社に入った頃に『もはや戦後ではない』と言われた。時代の節目節目が自分の人生と関わってきた」(8月、東京・吉祥寺で)＝田中秀敏撮影

かつて文壇に世代があった。1970年前後に台頭し、後進に大きな影響を与えた「内向の世代」もその一つ。文芸評論家、小田切秀雄が71年、〈脱イデオロギーの内向的な文学的世代〉と評し、名が付いた。黒井千次は阿部昭、後藤明生、坂上弘、古井由吉とともにその一人と目される。

社会と距離を置き、個々の内面を描いた彼らのただずまいは、安岡章太郎、遠藤周作ら学生時代からの友人で集った先行世代「第三の新人」と異質だ。「向こうは子ども同士もつながりがあるが、内向の世代の場合はない」。黒井の長男、長部聡介(59)はそこに文学世代の断絶を見る。

＊

内向の世代は働きながら作家として出発した。5人が70年に行った座談会で、文芸誌「文芸」編集長の寺田博は「サラリーマンの会だ」と苦笑した。労働は黒井文学を語る上で欠かせないテーマだ。

東京・高円寺で検事の父、長部謹吾と母、靖子の次男として生まれた。中学時代から作家を志し、高校時代に作家、野間宏に手紙で相談した。作家になるために何を学ぶべきか？　返事にはこうあった。

〈今後の文学の課題は、資本主義の構造のなかにある人間の究明です〉

文学部でなく東京大経済学部に進み、55年に富士重工業(現SUBARU)に入社した。〈ごく普通の会社員としての、当り前の暮しを一度は味わうことなしに小説は書けないのではないか、という認識があった〉。エッセー集「時代の果実」につづっている。折から、同社は大衆車の草分け「スバル360」の開発のまっただ中。「作りかけの工場、作りかけの車、なりかけの自動車産業にぶつかった」。管理部門で働き、物作りの現場を見た。

傍ら、小説も書き続けた。労働現場の矛盾を見つめた「メカニズムNo1」、工場の管理部門を舞台に労働の本質を問う「聖産業週間」。「生産現場ではなく管理部門のサラリーマンが文学的主題となる作品を書きたかった」。プロレタリア文学と一線を画す労働の捉え方は斬新だった。68年発表の芥川賞候補作「穴と空」は、「会社の仕事と家庭のあり方が一人の人間の中でどう関係しているか立体的につかみたい」と執筆した。

富士重工業で働いていた頃の黒井

＊

文筆業に専念するため退職した70年、「時間」で芸術選奨新人賞を受け、地歩を固めた。この頃から関心は家族、土地へと移る。近接する民家を描く84年刊の連作「群棲」は、土地と家族に流れた時間を表現した黒井の代表作。武蔵野大文学部教授の土屋忍(56)は語る。「黒井さんは日本ならではの都市論の旗手と見なされた。描かれる家族は崩壊直前までいっても崩壊せず、知的で成熟したイメージがある」

高円寺や中野、小金井と、これまでの人生の大半をJR中央線沿線で過ごした黒井は、武蔵野に根ざした作家でもある。終戦直後の少年少女の清潔な恋愛小説「春の道標」(81年刊)は、緑豊かな武蔵野の風情が映える。「たまらん坂」(88年刊)は国分寺や国立など東京西郊が舞台で、時間と空間の両軸が交わる。

テレビリポーターにも挑んだ。79年に劇団民芸で上演された「家族展覧会」など、戯曲も発表した。演劇人と接した経験は読売文学賞受賞作「カーテンコール」(94年刊)に結実する。日本文芸家協会理事長などを歴任し、現在も日本中国文化交流協会会長を務める。土屋は「黒井さんは実に外交的」と評す。

＊

社会の高齢化と自身の円熟により、老いが切実な主題となった。黒井の描く老年には既成のイメージを破る清新な風が吹く。2010年刊の「高く手を振る日」は、互いに伴侶を亡くした老年の男女の恋物語。息を詰め、携帯電話でメールをやり取りするシーンなど、「春の道標」に通じる胸の高鳴りがある。

「内向の世代は女性的。黒井さんの中の女性性のようなものが枯れず、みずみずしさを持ち続けている」。作家の高樹のぶ子(77)の見解だ。06年の野間文芸賞受賞作「一日 夢の柵」を挙げ、「作品に現実と非現実が入り交じり、そこに老いが入ってさらに上質なものになった」。

老年に至り、黒井は初めて戦前に思想検事、戦後に最高検次長検事や最高裁判事を務めた父と作品で向き合った。戦後民主主義の空気の中で育ち、1952年の血のメーデーにも参加した黒井にとって、父は「常に頭の上にある」存在だった。血縁と思想の問題をはらむ困難な題材に、正面切ってぶつかったのは2018年刊の「流砂」が最初で最後。「続編を書ければいいのですが、生きている間にできるかどうか」。21年、読売新聞の取材に語った。

＊

本紙では05年に始めた連載は現在も続く。「今は小説ではなく、日常的な感覚をエッセーの中に書いている。続けていくと見えてくるものがあるのではないかと思う」

(敬称略　文化部　武田裕芸)

若い世代も共感

原作映画に主演・渡邊雛子

黒井の同名短編集を原作とした映画「たまらん坂」(小谷忠典監督、2019年)に主演した俳優、渡邊雛子(26)＝写真＝は「時代が大きく違うという感じは受けなかった」と語る。

映画では同作の文章がナレーションで流れる。例えば、主人公が自分の不在時に妻と息子がロックバンド「RCサクセション」の曲をレコードで聴き、意気投合していたのを知る場面。「その疎外感に共感した。バンドは親世代のもので、レコードも私の身近にはない。でも身近な人の過去をたどっている感じがした」

原作をくり返し読み、「磨き込まれた古いイスのような文章」との印象を受けた。「上の世代の人が過去を振り返って今を見つめる作業をし、形にしてくれたものがある」と感じた。

自分には確たる根っこがない――。そんな不安を抱く時、「今立っている場所に歴史があるとわかる物語」に励まされる。土地に根ざし歴史を刻んだ黒井文学は、現代の若者の心にも訴えかける。

「内向の世代」日常的な感覚書き続け

交遊録

老いても互いに幸福で

樋口 恵子　4

猫歴80年の私は今、個性豊かな4匹に囲まれて暮らしています。

最年長は、すでにご紹介した猫ケアラーの「タヌキ」(メス、17歳)。めっきり小さくなりました。長年の友人は猫も年老いると体が小さくなるんですね」と言ってくださいます。私がなるべくベッドでゴロゴロしていると、近くに来て慰めてくれます。

純白の美猫「ピー」(オス、14歳)は姿そのままに天真らんまん。子猫時代は恐れられていましたが、今では新入り子猫に慕われる穏やかな、いいおじさん役になっています。

最も若い「ジャスティン」(オス、2歳)は、とても陽気で人懐っこく、来客があるたびに応接間に飛んでくる現在の接客係です。通称「オジャコ」と言います。

この3匹はすべてサイベリアンという種類ですが、ただ1匹、ナオミ(メス、3歳)だけは異なり、大型種のメインクーン。娘がテニスプレーヤーの大友なおみさんにちなんで、大きく、強くなれと名づけました。ご飯が大好き、はたしてわが家で一番の巨大猫となりました。

4匹は代わる代わる、あるいは娘の留守中などはそろって添い寝してくれたり、デスクの上で仕事の邪魔をしてサボらせてくれたりと、うれしい限りです。

しかし、私もヨタヘロ末期の90歳代。猫たちと楽しく過ごせるのも、ちゃんと猫の世話ができる年若い家族と暮らしているからにほかなりません。

娘が小学生の頃は5、6歳で病死してしまった猫もいましたが、今では猫の寿命も延びました。猫が体調を崩すと、娘が血相を変えて動物病院に駆け込んでいます。

私たち動物を飼う側は、彼らをみとるまで十分な健康寿命と経済力を保たねばなりません。高齢でひとり暮らしとなれば大猫は大切な家族ですが、施設に入るために泣く泣く手放した、ペットがいるから体が不自由になってもホームに入れない、などの話も聞きます。悲しいことです。

老人ホームの中には、飼っているペットも一緒に入所できるところがあるそうです。飼い主が先に亡くなっても、引き取り手がなければホームのペットとして、あるいは次の動物好きの入所者さんの伴侶動物として暮いてもらえるという話を聞いたことがあります。飼い主の相応の費用負担を前提に、こうした施設が少しでも増えてくれたらと思います。

老いた人間の最期に近い日々を共に過ごし、楽しませてくれる猫たち、犬たち。どうぞ彼らの最終の日々も安心して不自由のない時間で満たされますように。

ほんとに、ほんとにありがとう。

(評論家)　(おわり)

「ナオミ(左)やピーたち4匹の猫は、私をいつも癒やしてくれます」＊今利幸撮影

ペットらいふ

お散歩中に一休み

いずれもロングコートチワワで、左から「りおん」(メス、10歳)、「コルン」(オス、11歳)、「フラン」(メス、7歳)。涼しくなってきた夕方のお散歩が日課です。川沿いの遊歩道で一休みします
(東京都墨田区、鈴木知恵子さん　62)

犬のペット保険 ■ 4

教えて!

必要なら付帯サービスを

犬のペット保険では、病気やけがに備えるのはもちろん、様々な付帯サービスを提供している商品もあります。多くの飼い主が悩んでいるしつけやトレーニングに関して電話で専門家に相談できるサービスを提供する商品があるほか、愛犬が「迷子」になったら無料で捜索してくれるサービスも見られます。

特約としてペットの賠償責任を付帯する商品もあります。犬が人や他の犬をかんでけがをさせたり、物を壊したりして法律上の損害賠償責任が生じた場合に、保険金が支払われるものです。ただ、こうした補償は火災保険や自動車保険の個人賠償責任特約でもカバーできるので、内容が重複していないか注意が必要です。

医療費の負担を抑えるのがペット保険の目的です。まずは、補償内容や保険料などの基本的な部分を確認し、各種の付帯サービスが必要かどうか検討してみましょう。

このほか、1年ごとの契約継続の際に補償割合を70%から50%に変えることができる商品もあります。保険料が高いと感じる場合には通院補償がない商品などに切り替えてもよいでしょう。ただ、改めて病歴などを告知し、審査が行われますので、注意してください。

(ファイナンシャルプランナー・福島佳奈美)　(おわり)

INFO

2021年に飼育頭数が犬を上回り、猫の人気は高まるばかり。読売新聞オンラインで始まった新コーナー「猫学(ニャンコロジー)＝QRコード＝では飼育する上で必要な知識、保護猫、看板猫など猫にまつわる記事を随時更新している。猫に関するイベント情報を発信するほか、読売新聞日曜版で連載中の漫画「猫ピッチャー」も読める。

猫にまつわる情報が満載！

読売新聞オンライン

＊ペットの写真を募集　今飼っているペットの日常を撮影した写真を募集しています。住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、〒100-8055　読売新聞東京本社生活部「ペットらいふ」係か、メール(kurashi@yomiuri.com)へ。応募写真は返却しません。二重投稿はしないでください。個性や性質が分かるような一コマで、犬猫以外も歓迎。